

天智天皇ご即位一三五〇年

まもなく平成の御代も三十年を迎えます。昨年夏の天皇陛下のお言葉を、国民は驚愕の念を抱きながらも真摯な気持ちで受け止め、あと一年あまりでご譲位の運びとなってきました。今後とも末永く君民一体の紐帯を守り、日本と世界の平和と発展のために国民ともども歩んでいくことが求められます。

天智天皇はその六年（西暦六六七年）三月に大津宮に遷都され、翌年（六六八年）の一月三日、正式に即位されました。それまでは斉明天皇崩御ののち、皇太子として、実質的に天皇と変わらぬ御立場で政務を執っておられました。これを称制といい、通常『日本書紀』の記述に従って称制期間を含めて在位年の表記をしますが、正式なご即位から数えると、大津京遷都一三五〇年の本年の翌年、平成三十年は天智天皇ご即位一三五〇年となります。

マークエステル画伯の絵画奉納と絵画展



近江神宮日供神饌講  
新版第二十九号  
平成二十九年十二月十日

かねてから日本神話を題材にした油彩画を描き、各地の神社にも奉納している、マークエステルさんというフランス人の画家がいます。同氏は一九四三年パリに生まれた方ですが、一九七〇年大阪万国博の際に来日し、清



ました。このほか、子ども向けの日本神話の絵本全十一巻も出版されています。

このたびマークエステル氏より二十号油彩画「水海（おうみ）大津宮にて平和を願う天智天皇」という新作作品を奉納いただきました。十一月七日の御鎮座記念祭で奉納の儀が行われ、披露されました。絵の主題もちょうど大津京一三五〇年の御鎮座記念祭にふさわしいものといえます。あわせてその前後八日間にあたり、マークエステル世界展実行委員会の主催により、作品展「マークエステル世界展く花と日本神話」が近江神宮時計館宝物館企画展示室で開催され、多くのファンの方々などで賑わいました。

水寺の水墨画に感銘を受け、それ以降画家として活動を始めたとのことで、東洋画と西洋画を融合させた独自の技法によって多くの作品を描き、平成八年以降、伊勢神宮に始まって各地の神社一七〇社に、日本の神々にインスピレーションを受けた絵画を奉納しています。

同氏の画集『日本神話』は、神話の内容を題材とした作品二百点以上を収め、二〇〇六年、日本語・英語・フランス語など七カ国語で翻訳出版され

## 国宝展と大津京展

既に終わった展示ですが、十月から十一月にかけて京都国立博物館



崇福寺舍利容器と無文銀銭

発見されたもので、仏舎利に見立てた水晶粒を入れた緑色の小さなガラスの壺が金・銀・金銅の容器に三重の入れ子の状態で納められています。同時に発見された銀製のコイン「無文銀銭」は和同開珎や富本銭に先行する日本最古の貨幣です。崇福寺は天智天皇の勅願により、西暦六六八年大津宮の北西、滋賀里山中に創建された廃絶寺院で、来年は崇福寺創建から一三五〇年となります。

で『国宝展』が開催され、近江神宮所蔵の国宝「崇福寺塔心礎納置品」も展示されました。天智天皇奉祀神宮御創建活動と並行して進められた大津京関連遺跡発掘調査の一環で、昭和十四年に崇福寺の塔跡の心礎の穴の中から



同じく十月から十一月にかけて大津市歴史博物館では、大津京遷都一三五〇年記念企画展として「大津の都と白鳳寺院」と題する企画展が開催され、大津京関連遺跡の出土品などが展示されました。

## 時計学校講師「おうみの名工」に認定

近江神宮内にある近江時計眼鏡宝飾専門学校の時計修理技術者・時計博物館の時計保守管理者として、本年度の滋賀県技能者表彰「おうみの名工」に認定され、過日表彰式・認定式が行われました。染矢講師は本年三十二歳で、「おうみの名工」としては最若年の認定とのこと。七年前の平成二十二年には、おうみの名工の前段階ともいえる若手技能者表彰制度の「おうみ若者マイスター」としても認定・表彰されています。なお、本年度の技能五輪全国大会時計修理部門で、同学校の学生が二位・銀メダル受賞に輝きました。滋賀県選手団唯一の銀メダル受賞です。

## 年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式(続いて) 除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭(さいたんさい)
- 一月一日午前七時二分 初日の出遥拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭(につくはじめさい)
- 一月三日午前八時三十分 元始祭(げんしさい)
- 一月六日午前十時 かるた名人位クイーン位決定戦
- 一月七日午前九時 昭 and 天皇祭遙拝式
- 一月七日午前九時 かるた祭・高松宮記念杯全国競技かるた大会
- 一月十日午前八時三十分 天智天皇祭(天智天皇のご命日)
- 一月十五日午前十時 古神札焼納祭
- 二月三日午前十時 節分祭
- 二月十一日午前十時 紀元節祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi.jingu.org/>「日供神饌講」ページ